

アメリカの中学校家庭科教科書 に関する一考察

入江 和夫* 福田 隆真** 福田良子***

A Study on the American Text Book of Homemaking

Education for Junior High School

Kazuo IRIE* Takamasa FUKUDA** Ryoko FUKUDA***

(Received November 20, 1995)

Key Words: アメリカ、家庭科教科書、異文化理解、家庭生活

はじめに

近年の教育課程の改訂に伴って、教育の国際化、国際理解教育、異文化理解教育など多様な価値観を理解する教育がすすめられている。家庭科教育においても、この観点から異文化の理解あるいは異なった生活習慣の理解ということをしすすめていく必要がある。

アメリカの社会は基本的に多民族、多文化の上に成立をしているもので、おのおのがもっている生活習慣や文化を理解することを基盤としながら、現代の生活を営んでいる。教科書においては直接、異文化理解を促しているわけではないが、多民族によって構成されている社会で生活における共通認識を養うために、最も基本となる現実的な題材である家庭生活が多様に取り入れられているものと考えられる。

アメリカでは家庭崩壊、薬物乱用などが大きな社会問題となっている。また、安全性や健康に関する生の情報が公機関であるCPSC¹⁾、FDA²⁾、EPA³⁾などからさかんに提供されている。これらのことから、アメリカの家庭科教育とは現実的に対応可能なものが求められているものと思われる。日本においても、同様の社会問題や生活上の安全性や健康についての関心が払われる状況になってきているが、日本の中学校家庭科教科書は家庭生活の技能的な学習が主な割合を占めており、現代社会の現実的な対応という観点からの記述はまだ少ない。

そこで、本稿ではアメリカの中学校家庭科教科書をとりあげ、その題材を概観し、日本の教科書と比較することで、これからの日本の家庭科教育について一考する。

* 家政教育講座 ** 美術教育講座 *** 広島県黒瀬中学校

1 アメリカの中学校家庭科教科書の題材

表1にアメリカの中学校家庭科の教科書「Teen Living」⁴⁾の題材と日本の中学校家庭科教科書⁵⁾⁶⁾の題材を示した。ここではアメリカの教科書を中心にその題材構成を概観する。

表1 アメリカと日本の中学校家庭科教科書の題材

アメリカ中学校家庭科教科書 TEEN LIVING (1991)	日本の中学校家庭科教科書 技術・家庭 上下 (1993)
単元1 あなたについて	単元1 家庭生活
1章 自分自身をながめてみよう	1章 わたしたちと家庭の生活
1.1 自分自身を知ろう 1.2 成長と変化 1.3 明瞭な決定を下す	1.1 家族と家庭の生活について 考えてみよう
2章 生活管理	2章 わたしたちの家族と家庭生活
2.1 管理とは何？ 2.2 時間の管理 2.3 学習管理	2.1 わたしたちと家族のかかわり を考えてみよう 2.2 家族のはたらきと家族の役割 を考えてみよう
3章 健康	3章 わたしたちと家族の仕事
3.1 毎日の健康 3.2 心の健康 3.3 健康管理 3.4 物質乱用について学習しよう 3.5 非常事態と救助・援助	3.1 家族の仕事を調べてみよう 3.2 仕事のすすめ方を考えよう 3.3 簡単な食事のための仕事 3.4 衣服の着用と手入れ 3.5 室内の整備と美化
単元2 つながり・結びつき	4章 わたしたちと家庭の経済
4章 他者との関わり	4.1 家庭の収入と支出を知ろう
4.1 円滑なコミュニケーション 4.2 強いつながり 4.3 デート 4.4 あなたとあなたの地域社会	4.2 物資・サービスをじょうずに 選択・購入しよう 4.3 契約とクーリング・オフ について知ろう 4.4 消費者としての自覚をもとう

5章 家 族

- 5.1 家族と社会
- 5.2 家族のメンバーとあなた
- 5.3 家族のライフサイクル
- 5.4 家族の危機

6章 子どもの成長と子育て

- 6.1 発達の段階
- 6.2 子育てー 子どもの世話
- 6.3 うまい子どもの世話
ベビーシッター

単元3 財産管理

7章 仕 事

- 7.1 仕事の決定
- 7.2 仕事への準備
- 7.3 あなたが望む仕事に就く

8 金銭の管理

- 8.1 財産としてのお金
- 8.2 使用計画
- 8.3 金銭管理サービス

9章 私たちは消費者です

- 9.1 自由企業と事業主
- 9.2 消費者

10章 うまい買い物

- 10.1 購入計画
- 10.2 賢い買い物

11章 住居と家庭用品

- 11.1 住居の決定
- 11.2 家を家庭にする

5章 わたしたちの家庭と地域社会

- 5.1 家族や地域の人々とのかかわりを考えよう
- 5.2 地域の生活環境を快適にしよう

6章 これからの社会の変化と家庭生活

- 6.1 よりよい家庭生活を築いていこう

単元2 食物

1章 わたしたちと食物

- 1.1 わたしたちと食物のかかわりを考えよう

2章 青少年の栄養

- 2.1 青少年に必要な栄養の特徴を知ろう
- 2.2 食品と栄養素の関係を知ろう
- 2.3 食品群別摂取量のめやすを知ろう

3章 調理の計画

- 3.1 食品の選択と購入について考えよう
- 3.2 調理計画を考えよう

4章 日常食の調理

- 4.1 米の調理をしよう
- 4.2 汁ものの調理をしよう
- 4.3 肉・魚の調理をしよう
- 4.4 野菜の調理をしよう
- 4.5 小麦粉を使った菓子の調理をしよう

- 11.3 あなた自身の空間
- 11.4 家庭内の手入れ
- 11.5 家庭内の安全

- 単元4 食べ物と栄養

- 12章 食べ物と健康

 - 12.1 なぜ食べるのか、何を
食べるのか
 - 12.2 栄養とあなた（わたしたち）
 - 12.3 日々の食物ガイドの活用
 - 12.4 カロリーと体重

- 13章 食事計画

 - 13.1 食事の選択
 - 13.2 買い物
 - 13.3 高品質の食品を買う

- 14章 基本的な調理

 - 14.1 整頓された台所
 - 14.2 安全第一
 - 14.3 台所道具・備品
 - 14.4 レシピの活用
 - 14.5 計量

- 15章 食べ物の準備

 - 15.1 台所での仕事
 - 15.2 レシピの活用
 - 15.3 調理における原則
 - 15.4 対流式・電子レンジを
用いた料理

- 16章 食事とマナー

 - 16.1 朝食
 - 16.2 昼食とスナック
 - 16.3 夕食
 - 16.4 食卓のセッティング

- 4.6 めん類を調理しよう

- 5章 よい食生活とは

 - 5.1 食事の内容を検討しよう
 - 5.2 食生活を見直そう

- 6章 これからの食生活

 - 6.1 食生活と環境を考えよう

- 単元4 被服

- 1章 被服とわたしたちの生活

 - 1.1 わたしたちと被服の
かかわりを考えよう
 - 1.2 衣服の形はどのようになっ
ているか考えてみよう

- 2章 衣服づくりの基礎

 - 2.1 布の成り立ちを調べよう
 - 2.2 繊維の特徴を知って、
布地を選ぼう
 - 2.3 用具・機械の使い方を
知ろう

- 3章 日常着の製作

 - 3.1 製作の計画をしよう
 - 3.2 型紙を選ぼう
 - 3.3 製作例

- 4章 手芸品とわたしたちの生活

 - 4.1 手芸品とわたしたちの
生活について考えてみよう

- 5章 快適な衣生活

 - 5.1 着装のくふうをしよう

と礼儀作法

単元5 衣服と布

17章 私たちの衣服

- 17.1 衣服の選択
- 17.2 デザインの構成要素
- 17.3 たんすの整理
- 17.4 繊維と織物
- 17.5 衣服の手入れと収納

18章 縫うための準備

- 18.1 縫製室にて
- 18.2 計画・パターン・繊維の選択

19章 備品と準備

- 19.1 縫うための道具
- 19.2 準備・裁断・布地への印

20章 製作技術

- 20.1 手縫い
- 20.2 機械による製作

5.2 既制服の選び方と活用 のしかたを考えよう

単元4 住 居

1章 わたしたちの生活と住まい

- 1.1 わたしたちと住まいの
かかわりを考えよう

2章 住空間のはたらきとくふう

- 2.1 住空間のはたらきを考えよう
- 2.2 生活に必要な空間を知ろう
- 2.3 食事や団らんの空間を
計画しよう

3章 快適な住まい方

- 3.1 住まいの内外の施設や設備
を知ろう
- 3.2 衛生的な室内にしよう
- 3.3 室内の空気調節をしよう
- 3.4 室内の騒音を調べ、防止
の工夫をしよう
- 3.5 住まいの中の安全を考えよう

4章 これからの住生活

- 4.1 地域環境とごみの排出
について考えよう
- 4.2 地域環境と生活排水との
かかわりを考えよう
- 4.3 省資源・省エネルギーを
考えた生活をくふうしよう
- 4.4 これからの住まい方に
ついて考えよう

単元5 保 育

1章 幼児とわたし

1.1 幼児を知り、関心をもとう

2章 幼児のからだところの発達

2.1 からだと運動機能の発達の
特徴を知ろう

2.2 ところの発達のしかたを
知ろう

3章 幼児の生活

3.1 生活習慣はどのように形成
されるだろうか

3.2 遊びについて考えよう

3.3 おもちゃと遊びのかかわり
を考えよう

3.4 幼児の喜ぶおもちゃ
をつくろう

3.5 幼児の食生活の特徴
を知ろう

3.6 おやつとの与え方について
考えよう

3.7 幼児の喜ぶおやつ
をつくろう

3.8 幼児の被服の特徴
を知ろう

3.9 幼児の喜ぶ被服
をつくろう

4章 保育と環境

4.1 幼児の発達と環境の
かかわりを考えよう

4.2 よりよい保育環境を
めざして

表1に示したようにTeen Livingは5つの単元とそれに続く20の章がある。単元1は「あなたについて：ABOUT YOU」、単元2は「つながり・結びつき：RELATIONSHIPS」、単元3は「財産管理：RESOURCE MANAGEMENT」、単元4は「食物と栄養：FOODS AND NUTRITION」、単元5は「被服と繊維：CLOTHING AND TEXTILES」

である。これらの単元の内容を見ると単元1は生徒自身の精神生活と健康管理などのように心身両面にわたる生活管理のことが取り上げられている。そして、単元2の4章、5章では家庭と社会を含めた人間関係について詳しく述べられている。さらに、単元3の7、8、9、10章では生徒が生活を行う上で具体的に生じてくる仕事やお金、買い物などの現実社会の一員としての共通認識を学習させている。これらは日本の家庭科の「家庭生活」領域と考えられ、単元2の中の6章は「保育」に、単元3の11章は「住居」領域に相当するものと考えられる。単元4は「食物と栄養」、単元5は「被服」に関する事で、これらはわが国の家庭科教育の領域と同様である。このようにTeen- Livingの題材の内容を日本の中学校家庭科の領域に合わせ、頁数%を図1に示した。

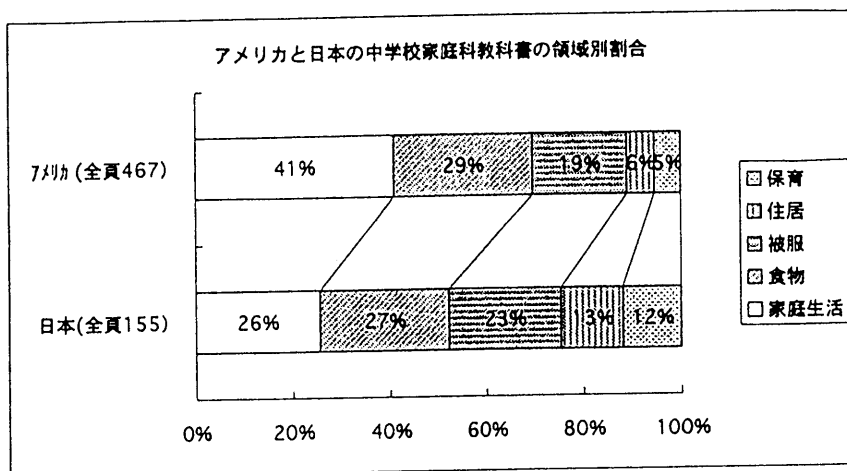


図1 アメリカと日本の中学校家庭科教科書の領域別割合

図1から見られる大きな特徴として、「家庭生活」の領域はアメリカの場合41%、日本の場合26%であり、アメリカの家庭科教科書は大半が「家庭生活」を占めていることがわかる。アメリカの「食物」、「被服」の割合はほぼ日本と同様であり、「住居」「保育」の占める割合は日本の方が多い。

つまり、アメリカは多様な文化や生活習慣を基盤としながら、現代社会を構成し、生活を営む上で様々な共通認識を習得し、個人の権利や義務と社会との有機的な関連を意識させるために「家庭生活」を中心に設定された題材が多いことによると思われる。そして、「食物」「住居」「被服」などの領域では様々な民族が持つ生活習慣をそこなわないように基本的な観点の育成と安全性を強調している。

2 題材の概要

ここでは前章であげた5つの単元の題材の具体的内容について各章との関連に基づいて以下に述べる。

1) 単元1「あなたについて：ABOUT YOU」

単元1の「あなたについて」はChapter 1「自分自身をながめてみよう」、Chapter 2「生活管理」、Chapter 3「健康」から成っている。以下、各Chapterごとに要約する。Chapter 1「自分自身をながめてみよう：Looking at you」の題材は3つの小題材、

「自分自身を知ろう：Knowing Yourself」「成長と変化：Growing and Changing」「明瞭な意志決定を下す：Making Smart Decision」から構成されている。すなわち、ここでは10代の間に、ゆるぎない自己概念を形成することは重要なことであるとし、そのためには自分自身を形成している要求、欲望、そして価値観を認識し、受け止め、明確な自己概念を維持するために、精神的な力・耐力を駆使するようにと述べている。大人になるにつれ、社会的・精神的価値観も成長し、ますます自分自身の行動に責任を持つようにと記述され、意志決定のモデルが提示されている。

Chapter 2「生活管理：Managing Your Life」の題材は「管理とは何?：What Is Management?」「時間の管理：Managing Time」「学習管理：Managing for Learning」の小題材から構成されている。すなわち、ここではすべての人は管理者であるとし、1、目標を決める。→2、自分の持っている資源（財産）を分析する。→3、計画を立て、財産を振り分ける。→4、調節をする。5、→計画を実行する。6、→結果を評価する。の6つのステップが管理者として必要だとし、時間を有効に使用することの重要性、正確かつ簡潔なノート作りは授業外でも役立つことを述べている。

Chapter 3「健康：Wellness」の題材は「毎日の健康：Everyday Health」「心の健康：Mental Health」「健康管理：Managing Health Decision」「物質乱用について学習しよう：Learning About Substance Abuse」「非常事態と救助・援助：Emergencies and First Aid」の小題材から成っている。すなわち、ここでは健康を財産としてとらえ、これを増進するためには健康的な食生活、運動、衛生、休暇・休養の必要性、医療機関の活用方法を説明している。また、薬の乱用の注意、急患の対処法などが述べられている。

したがって、単元「あなたについて」は学習する生徒に対して、自分自身を見つめさせ、責任ある行動の基本として意志決定の重要性を認識させ、自分の生活管理や生活する上で最も重要な健康についての位置づけが述べられ、一人の人間として生きていくために何が必要かの明確な流れが読みとれる。一言で言えば、人間学的内容であり、家庭科教科書の最初に記述されている意味は大きいものと考えられる。

2) 単元2 「つながり・結びつき：RELATIONSHIPS」

単元2はChapter 4「他者との関わり：Relating to Others」Chapter 5「家族：The Family」Chapter 6「子どもの成長と子育て：Child Development & Parenting」から構成されている。以下、各Chapterごとに要約する。

Chapter 4「他者との関わり：Relating to Others」の題材は「円滑なコミュニケーション：Good Communication」「強いつながり：Strong Relationship」「デート：Dating」「あなたとあなたの地域社会：You and Your Community」の小題材から構成されている。すなわち、ここでは他者との関わり、すなわち人間関係の構築はゆるぎない自己概念、共感、衝突を積極的に和解決しようとする態度、相互の信頼、尊重によって、強いつながりが生まれ、恋愛関係にも発展できることが述べられ、さらに視線を地域社会との関係の重要性に向けさせている。

Chapter 5「家族：The Family」の題材は「家族と社会：The Family and Society」「家族のメンバーとあなた：Family Members and You」「家族のライフサイクル：The Family Life Cycle」「家族の危機：Family Crises」の小題材から構成されている。すなわち、ここでは家族にはいろいろな形態があること、家族と社会と

の関係、家族の病気、死、アルコール、薬物乱用、離婚、家庭内暴力について説明し、“家出を考えれるなら”と公的機関へ連絡できるようにHotline Phone Numberが記述されている。そして、幸せな家庭生活づくりには円滑なコミュニケーション、協力、愛情が必要であることが述べられている。

Chapter 6「子どもの成長と子育て：Child Development & Parenting」の題材は「発達の段階：Stages of Development」「子育て—子どもの世話：Parenting - Caring for Children」「上手な子どもの世話：Successful Babysitting」の小題材から構成されている。すなわち、ここでは両親の役割を理解させるとともに子どもの理解を学習させている。

したがって、単元「つながり・結びつき」は身近な人間関係の構築から社会関係の発展を述べ、次に家族に視点を移し、病人、死、アルコール、薬物乱用などの具体的な対策を記述し、保育へ言及している。ここで、注目すべきことは家庭の結びつきが、ただ大切であるという記述に終始しているのではなく、今起こっている家庭問題を取り上げ、各自が対処できるように、生徒の安全性を中心に記述されていることである。このような記述は日本の中学校家庭科教科書にはない。しかし、このような家庭問題は日本でも起こっていることから、日本の中学校家庭科教科書の中にもある程度、具体的に上げる必要があると思われる。

3) 単元3「財産管理：Resource Management」

単元3「財産管理：Resource Management」はChapter 7「仕事：Careers」、Chapter 8、「お金の管理：Managing Your Money」、Chapter 9「私たちは消費者です：You Are a Consumer」、Chapter 10「うまい買い物：Skillful Shopping」、Chapter 11「住居と家庭用品：Housing and Home Furnishings」から構成されている。以下、各Chapterごとに要約する。

Chapter 7「仕事：Careers」の題材は小題材「仕事の決定：Decision About Work」「Preparing for Your Career：仕事への準備」「あなたが望む仕事に就く：Getting the Job You Want」から構成されている。すなわち、ここではアルバイトや夏休み中の仕事は、将来の職業選択に役立つものとし、ボランティア活動の積極的参加と、将来の職業についての長期目標を立てるように述べている。

Chapter 8「お金の管理：Managing Your Money」の題材は「財産としてのお金：Money as a Resource」「使用計画：A Spending Plan」「お金管理サービス：Money Management Services」から構成されている。すなわち、ここでは上手な金銭の管理は生活をより楽しくするとし、綿密に計画された予算を立てることが必要であることが述べられている。また、貯蓄、クレジットカードについても利点が述べられている。

Chapter 9「私たちは消費者です：You Are a Consumer」は自由企業と事業主：Free Enterprise and Entrepreneurship」「消費者：Consumers in Action」から構成されている。すなわち、アメリカ合衆国の資本主義による自由企業制についてのべ、消費者としての権利や義務について述べている。

Chapter 10「うまい買い物：Skillful Shopping」は「購入計画：Planning Your Purchases」「賢い買い物：Shopping Wisely」から構成されている。すなわち、消費者の責任ある選択が出来るよう、買い物術の向上を述べ、すべての購入選択に計画を

立てて実行し、最終的には賢い消費者となることを目指している。

Chapter 11「住居と家庭用品：Housing and Home Furnishings」は「住居の決定：Housing Decision」「家を家庭にする：Making a House a Home」「あなた自身の空間：Your Own Space」「家庭内の手入れ：Home Care」「家庭内の安全：Home Safty」の小題材から構成されている。すなわち、住まいとは人々の心的欲求を満たす場であり、住宅は、個人の経済力・価値観・有効性によって選択され、魅力的な生活空間の活用が述べられている。また、定期的な整備や省エネは家庭の維持・管理上重要であるとし、家庭内で起こる事故の適切な安全予防策、さらに住居侵入や他の犯罪から守ることも、家庭の安全対策に必要なことであると述べている。

したがって、単元3の「財産管理」は適切な仕事の選択方法から始まって、消費者としての権利、義務、賢い消費者を目指した消費者教育が主な内容である。この点は日本の教科書でも強調されているところである。しかし住居侵入や他の犯罪の記述は日本の教科書には見られない。日本の教科書にも安全な住居としての観点からの記述が必要であると思われる。

4) 単元4「食物と栄養」

単元4の「食物と栄養」はChapter 12「食べ物と健康：Food and Health」、Chapter 13「食事計画：Meal Planning」、Chapter 14「基本的な賄い方：Basic Kitchen Skills」、Chapter 15「食物の準備：Food Preparation」、Chapter 16「食事とマナー：Meals and Manners」から構成されている。以下、各Chapterごとに要約する。

Chapter 12「食べ物と健康：Food and Health」の題材は「なぜ食べるのか、何を食べるのか：Why We Eat What We Eat」「栄養とあなた：Nutrition and You」「日々の食物ガイドの活用：Using the Daily Food Guide」「カロリーと体重：Calories and Weight」の小題材から構成されている。すなわち、体に不可欠な栄養素は、蛋白質・炭水化物・脂肪・ビタミン・無機質、そして水であり、4つのグループとは、1, 牛乳・チーズ群 2, 肉・鳥肉・魚・豆群 3, 果実・野菜群 4, パン・穀物類 とし、5番目として、脂肪・糖類をあげ、これは栄養素として大きな働きをしていないと述べている。また、適切な体重コントロールは適切な食習慣を形成することが重要な鍵であると述べている。

Chapter 13「食事計画：Meal Planning」は「食事の選択：Making Your Meal Choices」「買い物：Shopping for Food」「高品質の食品を買う：Buying High Quality Food」の小題材から構成されている。すなわち、必要な栄養・値段・スケジュールを含めた食事計画を立て、効率的な買い物に必要な情報や品質表示の情報の利用、食物の貯蔵について述べている。そして、消費者として、高品質のものを買えるように具体的な方法が示されている。

Chapter 14「基本的な調理技術方法：Basic Kitchen Skills」は「整頓された台所：The Organized Kitchen」「安全第一：Safty First」「台所道具・備品：Kitchen Tools and Equipment」「レシピの活用：Using a Recipe」「計量：Measuring」の小題材から構成されている。すなわち、上手な料理は、まず台所の整備から始まると述べ、適切な衛生設備は食中毒を防ぎ、安全設備は、落下・切断・火事等の事故を防ぐと述べている。また、レシピの活用とそれがうまく行なわれるには材料の正確な計量が

必要であると記述されている。

Chapter 15「食物の準備 : Food Preparation」は「台所での仕事 : Working in the Kitchen」「調理法の活用 : Using a Recipe」「調理における原則 : Principles of Cookery」「対流式・電子レンジを用いた料理 : Convection and Microwave Cooking」の小題材から構成されている。すなわち、台所での作業をうまく行うためには、手順計画や基本的な調理用語の理解が必要であるとし、Chapter 12であげた4つのグループの基礎的な調理方法を述べている。さらに、電子レンジについて、また安全性について述べられている。

Chapter 16「食事とマナー : Meals and Manners」は「朝食 : Breakfast」「昼食とスナック : Lunch and Snacks」「夕食 : Dinner」「食卓のセッティングと礼儀作法 : Table Setting and Etiquette」の小題材から構成されている。すなわち、簡易に準備できる食事を朝食、昼食、夕食に含めることができるが、普段の食事には4つのグループの栄養群を含んだものが望ましいと述べられている。食事の礼儀作法はレストランのみならず家庭でも重要であることが述べられている。

したがって、単元4の「食物と栄養」の記述内容はほぼ日本の家庭科教科書と同様であるが、食品群の記述が異なっている。また、特に、脂肪のとりすぎについて警告していることが日本と大きく異なる。日本の食生活は欧米タイプになりつつあり、脂肪のとりえ方について、このような記述は必要であろうと思われる。

5) 単元5「衣服と繊維」

単元5はChapter 17「わたしたちの衣服 : Your Clothes」、Chapter 18「縫うための準備 : Getting Ready to Sew」、Chapter 19「器具と準備 : Getting Ready to Sew」、Chapter 20「製作技術 : Construction Techniques」の題材から構成されている。各Chapterごとに要約する。

Chapter 17「わたしたちの衣服 : Your Clothes」は「衣服の選択 : Clothing Choices」「デザインの構成要素 : Design Elements」「たんすの整理 : Planning Your Wardrobe」「衣服の手入れと収納 : Clothing Care and Storage」から構成されている。すなわち、衣服の選択は流行よりも着心地の良さや個人の好みを優先させるべきだと述べ、洋服リストを作成しながらタンスの整理を行うべきだと述べている。また、消費者として買う前に表示の見方、店の返品に対する対応を調べるように記述している。そして、購入した洋服の手入れは長く着るために欠かせないことも述べている。

Chapter 18「縫うための準備 : Getting Ready to Sew」は「縫製室にて : In the Sewing Laboratory」「計画・パターン・繊維の選択 : Choosing Your Project, Pattern, and Fabric」の小題材から構成されている。すなわち、裁縫室での活動は安全に注意しなければならないこと、円滑な作業には系統立てておくことが重要であることが述べられている。

Chapter 19「器具と準備 : Equipment and Preparation」は「縫うための道具 : Equipment for Sewing」「準備・裁断・布地への印 : Preparing, Cutting, and Marking Fabric」の小題材から構成されている。すなわち、道具として、採寸・待ち針・裁断・アイロンが必要であり、ミシンの機能の理解、糸を通し方、手入れの知識も必要であるとしている。また、バックステッチや直線縫い、コーナーや曲線縫い等のマスター、家庭で活用が述べられている。さらに、裁断方法、型紙、仮縫いなどについて

も記述されている。

Chapter 20「製作技術：Construction Techniques」は「手縫い：Hand Sewing」「機械による製作：Machine Construction」の小題材から構成されている。すなわち、様々な縫い方・手順を知る必要性、手縫いと機械縫いの違いが述べられ、古着の再利用や直しを考えさせている。

したがって、単元5の「衣服と繊維」はほとんど日本の教科書と同様の記述である。古着の再利用や直しを考えさせていることから、環境教育の重要性がうかがえる。

3 アメリカの題材の特徴

以上、見てきたようにアメリカの家庭科教育の題材は領域としてはわが国と類似しているが、その設定方法と観点は相違したものがある。以下にアメリカの教科書の題材を分析してその特徴を述べる。

- 1) 5つの単元は図1で見られたように、わが国の題材の領域と類似しているが、家庭生活の領域を重視している。
- 2) 家庭生活の領域と考えられる題材には個人としての人間教育から始まり、個々の家庭及び社会との人間関係について精神的な側面と現実的な側面の両面から題材設定をおこなっている。
- 3) 食物の領域においては具体的なレシピには触れず、食物の持つ栄養や安全性と言った基本的内容を重視している。このことは多文化の社会であるから、様々なレシピの全てに触れることができないからであろう。そして、学校教育ではその必要性もないと考えられる。
- 4) 被服の内容についても3)と同様に被服の素材や意義、安全性と言った基本的内容を重視している。

おわりに

以上、アメリカの中学校家庭科の教科書の具体的な題材について述べてきたが、個々の題材については表面的にはわが国と類似しているが、その取り組み方や重要視する対象が明らかに異なっている。家庭科という教育内容は本来、人間の生活の総合的な題材を対象とするものであるから、社会の構成要素や時代や地域によって題材設定の仕方やその取り組み方が異なってくることは当然であると思われる。教育は過去の文化遺産の伝承と共に現代社会に対する創造的な態度を育てる必要がある。アメリカの教科書を通して見ると現代の子ども達が多民族、多文化を基盤とした複雑化した社会で生きるための方法論が示されているように思われる。そして、家庭内暴力、離婚、アルコール依存症の被害、日常的トラブルの解消方法などまさに現代を生きていく上で必要な情報を具体的に示している点がマニュアル化し、最低限必要な共通認識として題材に取り上げられている。

こうしたアメリカの複雑な社会の是非はともかく、わが国においても同様なトラブルや被害は年々増えてきているように思われる。家庭科教育が現代生活にいかに対応すべきかということを考えて、わが国でも今後の題材設定を見直す必要があると思われる。

参考文献

- 1) gopher://cpsc.gov/
- 2) <http://www.fda.gov/fdahomepage.html>
- 3) <http://www.epa.gov/>
- 4) Peg Sawyer. 「TEEN LIVING」 Prentice-Hall、Inc 1991
- 5) 鈴木寿雄, 技術・家庭 上 開隆堂 1993
- 6) 鈴木寿雄, 技術・家庭 下 開隆堂 1993